

【表紙】

| | |
|------------|------------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成27年2月12日 |
| 【四半期会計期間】 | 第86期第3四半期（自平成26年10月1日至平成26年12月31日） |
| 【会社名】 | 小倉クラッチ株式会社 |
| 【英訳名】 | OGURA CLUTCH CO.,LTD. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 小倉 康宏 |
| 【本店の所在の場所】 | 群馬県桐生市相生町二丁目678番地 |
| 【電話番号】 | (0277) 54 - 7101 (大代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役常務執行役員（経営管理本部担当） 河内 正美 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京営業所 東京都港区浜松町一丁目10番12号 第一共栄ビル |
| 【電話番号】 | (03) 3433 - 2151 (大代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 執行役員（営業本部長） 猪越 義彦 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第85期 第3四半期連結 累計期間 | 第86期 第3四半期連結 累計期間 | 第85期 |
|----------------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------|
| 会計期間 | 自平成25年4月1日 至平成25年12月31日 | 自平成26年4月1日 至平成26年12月31日 | 自平成25年4月1日 至平成26年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | 28,896 | 27,610 | 38,044 |
| 経常利益 (百万円) | 947 | 968 | 1,132 |
| 四半期(当期)純利益 (百万円) | 626 | 442 | 477 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 1,478 | 1,049 | 1,797 |
| 純資産額 (百万円) | 14,383 | 15,515 | 14,268 |
| 総資産額 (百万円) | 38,003 | 39,618 | 39,225 |
| 1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円) | 41.78 | 29.56 | 31.88 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円) | - | - | - |
| 自己資本比率 (%) | 37.22 | 38.38 | 35.71 |

| 回次 | 第85期 第3四半期連結 会計期間 | 第86期 第3四半期連結 会計期間 |
|-------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自平成25年10月1日 至平成25年12月31日 | 自平成26年10月1日 至平成26年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 (円) | 21.64 | 8.29 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は次のとおりであります。

平成26年6月に輸送機器用、一般産業用の各種クラッチ・ブレーキ等の製造および販売を行うことを目的として、オグラクラッチ・インディアPVT.LTD.を新規設立しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国では雇用不安が和らぐ中、ガソリン価格の低下等から好調な個人消費が成長を牽引していますが、欧州では主要国の景気減速から回復は伸び悩みデフレが懸念されています。アジアにおいては、中国の製造業や不動産業の投資が伸び悩み、経済成長率は緩やかに鈍化し、タイでは政治的混乱の影響等から不透明な状況が続いています。

また、日本経済においては、個人消費や住宅投資は消費税導入後の落込みから持ち直しつつあり、日銀の金融政策により円安が進み、企業収益の改善に伴い設備投資が順調に推移する等、緩やかな回復傾向が見られました。

このような状況のもとで、当社グループはグローバル市場で積極的な販売活動を行ってまいりました。その結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、27,610百万円と前年同期と比べ1,286百万円の減少（前年同期比4.5%減）となりました。営業利益は803百万円と前年同期と比べ28百万円の増加（前年同期比3.7%増）、経常利益は968百万円と前年同期と比べ20百万円の増加（前年同期比2.2%増）、四半期純利益は442百万円と前年同期と比べ183百万円の減少（前年同期比29.3%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

輸送機器用事業

輸送機器用事業においては、財政問題や政情不安が続く欧州経済の影響や、客先の在庫調整や新規立上げ計画の遅れの影響等から販売は減少となりました。

その結果、売上高は19,809百万円と前年同期と比べ2,120百万円の減少（前年同期比9.7%減）となり、セグメント利益は634百万円と前年同期と比べ233百万円の減少（前年同期比26.9%減）となりました。

一般産業用事業

一般産業用事業においては、OA、印刷・製本業界向けの販売は前期比マイナスとなりましたが、国内の景気回復や、アジアを中心とする設備投資の増加等により、モーター、変・減速機、昇降・運搬、金属工作・加工業界向け等の販売は増加となりました。

その結果、売上高は7,001百万円と前年同期と比べ648百万円の増加（前年同期比10.2%増）となり、セグメント利益は134百万円と前年同期と比べ126百万円の増加（前年同期比1,502.9%増）となりました。

その他

その他では、売上高が799百万円と前年同期と比べ185百万円の増加（前年同期比30.3%増）となりました。セグメント利益は86百万円と前年同期と比べ39百万円の増加（前年同期比85.0%増）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は281百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 60,000,000 |
| 計 | 60,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年12月31日) | 提出日現在発行数(株) (平成27年2月12日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|---|-----------------------------|------------------------------------|-----------------|
| 普通株式 | 15,533,232 | 15,533,232 | 東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード) | 単元株式数 1,000株 |
| 計 | 15,533,232 | 15,533,232 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|----------------------------|-----------------------|----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成26年10月1日～ 平成26年12月31日 | - | 15,533,232 | - | 1,858 | - | 1,798 |

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|---|----------|-------------|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 551,000 (相互保有株式) 普通株式 17,000 | - | 単元株式数1,000株 |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 14,859,000 | 14,859 | 同上 |
| 単元未満株式 | 普通株式 106,232 | - | - |
| 発行済株式総数 | 15,533,232 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 14,859 | - |

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|------------------------|-----------------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| (自己保有株式) 小倉クラッチ株式会社 | 群馬県桐生市相生町 2-678 | 551,000 | - | 551,000 | 3.54 |
| (相互保有株式) 信濃機工株式会社 | 長野県埴科郡坂城町 坂城1984-1 | 17,000 | - | 17,000 | 0.10 |
| 計 | - | 568,000 | - | 568,000 | 3.65 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|-------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 7,281 | 7,610 |
| 受取手形及び売掛金 | 11,073 | 注1 10,277 |
| 商品及び製品 | 3,048 | 3,102 |
| 仕掛品 | 2,413 | 2,557 |
| 原材料及び貯蔵品 | 1,638 | 2,054 |
| 繰延税金資産 | 198 | 127 |
| その他 | 800 | 768 |
| 貸倒引当金 | 39 | 39 |
| 流動資産合計 | 26,414 | 26,460 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 10,404 | 10,670 |
| 無形固定資産 | | |
| その他 | 319 | 326 |
| 無形固定資産合計 | 319 | 326 |
| 投資その他の資産 | 注3 2,086 | 注3 2,160 |
| 固定資産合計 | 12,810 | 13,157 |
| 資産合計 | 39,225 | 39,618 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 8,435 | 8,010 |
| 短期借入金 | 8,869 | 9,599 |
| 未払法人税等 | 241 | 151 |
| 賞与引当金 | 266 | 79 |
| 事業構造改善引当金 | 212 | 104 |
| その他 | 1,286 | 1,757 |
| 流動負債合計 | 19,311 | 19,703 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 3,611 | 2,609 |
| 繰延税金負債 | 272 | 371 |
| 役員退職慰労引当金 | 463 | 490 |
| 関係会社整理損失引当金 | 153 | 197 |
| 退職給付に係る負債 | 563 | 158 |
| 資産除去債務 | 24 | 24 |
| その他 | 556 | 549 |
| 固定負債合計 | 5,645 | 4,400 |
| 負債合計 | 24,957 | 24,103 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,858 | 1,858 |
| 資本剰余金 | 1,844 | 1,844 |
| 利益剰余金 | 11,123 | 11,766 |
| 自己株式 | 344 | 346 |
| 株主資本合計 | 14,482 | 15,123 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 353 | 559 |
| 為替換算調整勘定 | 388 | 94 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 439 | 383 |
| その他の包括利益累計額合計 | 474 | 81 |
| 少数株主持分 | 260 | 310 |
| 純資産合計 | 14,268 | 15,515 |
| 負債純資産合計 | 39,225 | 39,618 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 売上高 | 28,896 | 27,610 |
| 売上原価 | 24,726 | 23,199 |
| 売上総利益 | 4,170 | 4,410 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,395 | 3,607 |
| 営業利益 | 774 | 803 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 33 | 26 |
| 受取配当金 | 25 | 26 |
| 為替差益 | 193 | 182 |
| 持分法による投資利益 | - | 36 |
| 不動産賃貸料 | 53 | 54 |
| その他 | 83 | 86 |
| 営業外収益合計 | 390 | 412 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 152 | 149 |
| 手形売却損 | 8 | 8 |
| 持分法による投資損失 | 6 | - |
| その他 | 49 | 89 |
| 営業外費用合計 | 217 | 247 |
| 経常利益 | 947 | 968 |
| 特別損失 | | |
| 投資有価証券評価損 | 32 | - |
| 関係会社整理損失引当金繰入額 | - | 47 |
| 特別損失合計 | 32 | 47 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 915 | 921 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 256 | 372 |
| 法人税等調整額 | 9 | 65 |
| 法人税等合計 | 265 | 437 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 650 | 483 |
| 少数株主利益 | 24 | 40 |
| 四半期純利益 | 626 | 442 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 650 | 483 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 96 | 206 |
| 為替換算調整勘定 | 706 | 308 |
| 退職給付に係る調整額 | - | 55 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 25 | 3 |
| その他の包括利益合計 | 828 | 566 |
| 四半期包括利益 | 1,478 | 1,049 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,428 | 998 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 50 | 51 |

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第2四半期連結会計期間より、新規設立したオグラクラッチ・インディアPVT.LTD.を連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率を使用する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が349百万円減少し、利益剰余金が349百万円増加しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ14百万円減少しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

注1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形は、次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------------|
| 受取手形 | - 百万円 | 85百万円 |

2 受取手形割引高

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|---------|-------------------------|-------------------------------|
| 受取手形割引高 | 90百万円 | 670百万円 |

注3 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

| | 前連結会計年度 (平成26年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|----------|-------------------------|-------------------------------|
| 投資その他の資産 | 184百万円 | 184百万円 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) |
|-------|--|--|
| 減価償却費 | 779百万円 | 797百万円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成25年6月27日 定時株主総会 | 普通株式 | 119 | 8 | 平成25年3月31日 | 平成25年6月28日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成26年6月27日 定時株主総会 | 普通株式 | 149 | 10 | 平成26年3月31日 | 平成26年6月30日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の
末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他(注) | 合計 |
|-------------------|---------|---------|--------|--------|--------|
| | 輸送機器用事業 | 一般産業用事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 21,929 | 6,353 | 28,283 | 613 | 28,896 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 18 | 3 | 22 | - | 22 |
| 計 | 21,948 | 6,357 | 28,306 | 613 | 28,919 |
| セグメント利益 | 867 | 8 | 876 | 46 | 923 |

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防災関連業界向け等の輸送機器用事業および一般産業用事業以外の事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-----|
| 報告セグメント計 | 876 |
| 「その他」の区分の利益 | 46 |
| 内部取引消去 | 0 |
| 棚卸資産の調整 | 159 |
| 減価償却費の調整 | 10 |
| 全社費用(注) | 0 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 774 |

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他（注） | 合計 |
|-------------------|---------|---------|--------|--------|--------|
| | 輸送機器用事業 | 一般産業用事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 19,809 | 7,001 | 26,811 | 799 | 27,610 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 30 | 4 | 34 | - | 34 |
| 計 | 19,840 | 7,005 | 26,845 | 799 | 27,645 |
| セグメント利益 | 634 | 134 | 768 | 86 | 855 |

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防災関連業界向け等の輸送機器用事業および一般産業用事業以外の事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-----|
| 報告セグメント計 | 768 |
| 「その他」の区分の利益 | 86 |
| 内部取引消去 | 25 |
| 棚卸資産の調整 | 42 |
| 減価償却費の調整 | 9 |
| 全社費用（注） | 5 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 803 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) |
|----------------------|--|--|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 41円78銭 | 29円56銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(百万円) | 626 | 442 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(百万円) | 626 | 442 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 14,989 | 14,983 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月12日

小倉クラッチ株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森田 亨 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮一 行男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている小倉クラッチ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、小倉クラッチ株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。